



## 広島市青少年支援メンター制度

「子どもたちが主体的に生きる基礎を作りたい」  
 こんな思いから、11年前、全国に先駆けて広島市で青少年支援メンター制度が始まった。  
 青少年メンター支援制度とは、週に1、2回、小中学生と「メンター」と呼ばれる大人が1対1で話をしたり、一緒に遊んだりしながら、子どもたちの心のケアや視野を広げることをおこなっている。制度を利用できるのは広島市在住の小中学生が中心で、2014年度では170組、11年間の延べ人数では1133組の交流がおこなわれた。

不登校や引きこもりの子どもたちに向けて、学校や教育委員会が利用を薦めるだけでなく、子どもと話をしたいけど時間が取れないという親御さんが制度を利用する場合も多い。  
 子どもたちは、メンターとの関わりを通して、自分に自信を持てるようになったり、物事への意欲が湧いたりといった変化が生まれている。中には不登校だったけれど

と学校へ行けるようになり、部活で活躍するようになったという子どももいるようだ。  
 この変化の要になるのが、メンターの関わりかただ。誰でもメンターになれるのではなく、審査に選ばれ、傾聴や児童心理に関する研修を受けた上でメンターとして登録される。  
 メンターには何よりも子どもたちへの教育的愛情と子どもに寄り添う姿勢が求められる。子どもの話を最後まで聞き、気持ちを受け止めることで安心感を与えることができるのだ。

しかし、メンターに求められるのは話を聞いてくれるという安心感だけではない。自発的な子どもに対しては大人のモデルとしての役割も求められている。  
 現在メンターとして登録されているのは40人ほどで、20代から80代まで幅広い層が活躍している。教育的愛情と大人のモデルとしての役割を兼ね備えたメンターがある広島市だからこそ、この制



### 広島市青少年支援メンター制度

担当：こども未来局 こども・家庭支援課  
 制度開始年：2004年  
 住所：広島県広島市中区国泰寺町 1-6-34

度が10年以上も続き、人と関わる機会が無い子どもや関わるのが苦手な子どもたちにも主体性を育むことが出来るのだろう。



## D×P

「ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会」の実現を目指し、独自のプログラム「クレッシェンド」を各地で展開するのは、大阪を拠点として活動する認定NPO法人D×Pだ。  
 クレッシェンドは、進路未決定率41%（『平成26年度学校基本調査』文部科学省）という現状にある通信制の高校生が、卒業後の進路決定を自律的におこなうことを目標としたプログラム。  
 3ヶ月間に全4回行われるプログラムは、おおよそ大人1人に対して生徒1〜2人の比率になるように組まれた少人数のグループで行われ、毎回同じ生徒と大人が関わる。  
 プログラムの中で互いの夢や失敗経験について語り合うことを通して、生徒は多様なバックグラウンドを持つ大人や同世代と出会い、関係性を築き、深め、「人とのつながりを持つ自分」に自信を得ていくようになる。  
 大人たちの多様な生きかたとの出会いにより、生徒は人生の選択肢を広げていく。

このプログラムを支えているのは、学生や社会人からなる「コンポーザー」と呼ばれる大人たちの存在だ。  
 コンポーザーは、「否定しない」「様々な職業やバックグラウンドから学ぶ」「年上・年下から学ぶ」という三姿勢をベースに、「こうするべき」という決めつけはせず、「自分はこう思う」という『ひとりの人間』としての関わり合いを大切にしている。  
 そこにあるのは、支援者と被支援者という関係ではなく、人間同士の思いや経験のぶつけ合いだ。ありのままの姿で関わり合うことで、生徒はひとりの人間として認められている感覚を持つようになるのだ。  
 これまでクレッシェンドに参加した生徒の中で、進路未決定の子どもは1割にも満たないという。全体の数値と比べれば格段に低い数値だ。だからといって、それによしとはD×Pは考えていない。  
 そもそもD×Pと出会っていない若者が多くいる中で、どうすればその若者たちに「機会」を提供

していけるか。まだ見ぬ多くの若者の未来に希望を灯すため、D×Pの挑戦は続いていく。



### 認定NPO法人D×P（ディーピー）

代表者：今井 紀明  
 活動開始年：2010年  
 住所：大阪府大阪市中央区天満橋京町 1-27  
 ファラン天満橋 33号室